

平成 28 年度 【 学園研究費助成金 < B > 】 研究成果報告書

学部名 国際コミュニケーション学部

フリガナ ツカダ マモル
氏名 塚田 守

研究期間 平成 28 年度

研究課題名 在宅看護ケアに関する語りの社会学的研究

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	塚田 守	国際コミュニケーション学部	教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

日本は高度高齢者社会になっている現状から、病院での終末看護ケアを病院で行うことが困難な状況になり、政府も在宅看護の重要性に注目している。在宅看護で重要な役割を果たすのは、訪問医師というよりはむしろ看護師である。しかし、現段階では、訪問看護師の在宅看護ケアの実態は必ずしも明らかになっていない。そこで本研究は、在宅看護に携わる看護師が集まるセミナーに参加しながら、看護師にインタビューを行い、在宅看護の現状を分析することを目的としている。在宅看護で重要な役割をする「語り」に注目し、語りを社会的に分析することで、在宅看護の在り方を考察しようとしている。

2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

本研究の方法は、「参与観察」として、看護師が集まるセミナーに参加し、そこで聞き取られた「語り」の分析を通して、在宅看護ケアの現場の状況を考察するものである。このセミナーでは、一人の看護師あるいは看護チームがどのような在宅看護実践をしてきたかの事例発表をしている。その事例発表に基づき、参加者の看護師たちが多様な意見を交換する場になっている。その多様な意見の交換という「語り」を分析することで、看護ケアの在り方について分析する。また、そのセミナー参加者にインタビューを行い、看護師として、どのような看護ケアをしているか、また、患者とのかかわり合いはどのようなものを聴き取り、その分析を行うことで、看護師たちが患者と具体的に関わっているかについての「語り」を考察する。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

本研究はまだ、研究途中であるので、全体的な明確な研究成果を発表するには至っていないが、本助成金によって2点の研究成果が得られたと考えている。

まず、国際学会での研究発表を通して、世界の社会学者に対して、一人の日本の看護師がどのように訪問看護師に成長したかについての報告を行うことができた。報告者は、2016年7月9日～7月15日に開催された国際社会学会第3回フォーラム(約6000人の参加)に参加し、Society and Biographyの部会において、“A Japanese Nurse’s Self-Awareness of Caring: An Analysis of Biographical Understanding of Caring Experiences”を発表し、看護師の成長のプロセスの一環として、看護現場での看護師自身の「気づき」に注目し、自伝的記述(Biographical understanding)の方法により分析し、看護体験の考察を行った。その成果として、看護学生の実習から始まる看護の実践体験での「気づき」は一人の看護師の現在の看護ケアの在り方を形成する重要な役割を果たしているということが明らかになった。そして、その「気づき」の体験を通して、その看護師が患者を包括的にケアする訪問看護師になっていったプロセスを描写することができ、それを発表し、海外の研究者とそのテーマについて議論を展開することができた(海外出張費はこの目的のために使用された)。

看護師が参加するセミナーの2回分(それぞれ3～4時間)の様々な語りの分析を行うために、そこで交わされたすべての「語り」を文字起こし分析する手法をとっている。そのために、文字起こしの専門的技術を持つアルバイトにその文字起こしを依頼し、文字起こし原稿を作成した。この二つの文字起こし原稿は、分析しているプロセスである。また、「語り」の分析の知見が他の研究の中でどのように位置づけられるのかに関しては、文献をレビューしている段階である。この成果は、来年度には発表したいと考えている。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①看護ケア	②在宅看護	③語り	④看護師
⑤参与観察	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他○名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

学会発表

Mamoru Tsukada, “A Japanese Nurse’s Self-Awareness of Caring: An Analysis of Biographical Understanding of Caring Experiences” Society and Biography, 3rd ISA Forum of Sociology, July 10-14, Vienna, Austria.

2つのセミナーを文字起こしした原稿については、「語り」の社会学の視点から、看護師と患者の関係、看護師の多様な「声」、看護現場の在り方、などの点に注目し、分析する予定である。その成果は来年度の日本在宅看護学会で発表するか、学会誌あるいは大学紀要に論文として掲載する予定である。